様　式　Ｆ－１９－２

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　　元 年　　６ 月 ２０ 日現在

機関番号：１３９０１
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）
研究期間：2016～2018
課題番号：１５ＫＫ０１１６

研究課題名（和文）儒学政治思想の持続と変容：朝鮮半島の国際政治認識を中心に（国際共同研究強化）

研究課題名（英文）Persistence and Transformation of Confucian Political Thought: Focusing on the International Politics in the Korean Peninsula(Fostering Joint International Research)

研究代表者
姜　東局（KANG, Dongkook）

名古屋大学・大学院法学研究科・教授

研究者番号：８０４０２３８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　10,400,000円
渡航期間：　12ヶ月

研究成果の概要（和文）：本研究では、第一に、朝鮮半島の国際政治認識における伝統と近代の関係を解明した。とりわけ、近世日韓関係を規定した「交隣」概念の歴史について、一次資料に基づいた研究を行って、その成果を一連の論文で発表した。第二に、儒学思想が持つ思想領域の特徴に注目することで、東アジア政治における伝統と近代という課題に制度と思想の両方からアプローチできる方法論を提示した。第三に、明治時代の日本と1960－70年代の韓国における伝統と近代の問題をテーマにした総合的な比較歴史研究を実施し、その一部をアメリカで発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究成果の意義は、第一に、日本の学界とアメリカが学界の持つ思想研究と制度研究を総合する実証研究を通じて、西洋と非西洋との新しい関係設定という大きな課題には十分に対応できていな学術的な状況を打破する一つの事例を示したところにあろう。第二に、東アジア伝統と西洋近代の整合的な関係を実証的な研究を通じて見せたことによって、非西洋地域における伝統と近代の断絶という政治学、さらには社会科学一般の前提を克服することで、地域研究と一般理論との関係を再考させる意義をも持っている。

研究成果の概要（英文）：In this research, firstly, I clarified the relationship between tradition and modernity in the perception on international relations of the Korean Peninsula. In particular, I conducted a research on the history of the concept of "gyorin", which defined the Japan-Korea relationship until late 19th century, and published a series of papers. Second, by focusing on the functions of spheres of thought, I presented a methodology that can approach the issue of tradition and modernity in East Asian politics from both institutions and thought. Thirdly, I conducted comparative historical research on the theme of tradition and modernity in Japan during the Meiji period and Korea during the 1960s and 70s, and some part of the result was presented in the colloquium which was held in University of Washington.

研究分野：政治学

キーワード：伝統と近代　東アジア　制度と思想

様　式　Ｆ－１９－２

１．研究開始当初の背景

１）研究代表者は、これまでの研究を通じて近代朝鮮の国際政治認識における伝統と近代の間の継承の側面を明らかにしてきた。その過程で、伝統と近代の継承という現象が朝鮮の国際政治認識に限定されることなく、地域的には東アジア、分野的には政治一般で見えるのではないかという仮説を持つようになった。

２）研究代表者は政治思想を専門としているため、東アジア政治における伝統と近代の関係一般に対する研究に不可欠な現実をも含めた総合的な研究を一人で行うのは不可能である。そこで、アジアにおける伝統と近代という問題に実証的な方法からアプローチするという研究の方向性を申請者と共有しながら、政治史分野などを専門にすることで、学問分野の相互補完が期待できる研究者との共同研究が必要となった。

２．研究の目的

１）東アジア各国の政治における伝統と近代の関係一般においても、同じく継承の現象が見つかるのではないかという仮説を検証する。もし伝統と近代の継承が実証的な研究を通じて証明されれば、この成果は非西洋地域における伝統と近代の断絶という政治学、さらには社会科学一般の前提を克服することで、地域研究と一般理論との関係を再考させるなどの意義を持つのであろう。

２）日本と韓国の伝統と近代に関する比較制度・思想の研究を通じて、両国と東アジア地域の政治に関するさらに深い理解を提供する。

３．研究の方法

１）理論的な方法としては、相対的な独立性を持つ制度と思想という変数が持つ密接な相互関係の時系列的な分析というアプローチをとる。この方法論を駆使して、まず一国の事例を明らかにしたうえ、比較研究を通じて、各々の事例に対する均衡のとれた理解、さらには、一般と特殊の分別などを行う。

２）実証研究の際には、一次資料に基づいた文献調査の方法論をとる。本格的な歴史研究の水準の資料調査や資料批判を通じて、理論的なアプローチに偏った研究が持ちやすい実証性の欠如を克服する。

４．研究成果

１）研究代表者は、朝鮮の国際政治認識における伝統と近代の間の継承の側面を明らかにする実証研究を続けてきたが、本研究課題の関係では、主に「交隣」の概念について研究を深め、一連の成果を公開した（姜東局「近代朝鮮における交隣概念」『朝鮮史研究会論文集』第 54 集、2016 年 10 月、33-59 頁；姜東局「朝鮮半島における交隣概念の起源：高麗王朝期における原型の形成」『名古屋大学法政論集』第 272 号、2017 年 3 月、101-120 頁；姜東局「朝鮮前期の交隣概念」（韓国語）『概念と疎通』第 21 号、2018 年 6 月、129-167 頁）。これらの研究で明確にしてきた主な内容は以下の通りである。

・中国以外の国家間の両国関係の原則としての交隣概念は、高麗王朝の儒学的知識人による『孟子』の「交隣国」概念の再構成の結果として登場した。
・高麗王朝後期の交隣概念の変容の過程で、この概念は誠・信という原理に基づいていることが確認された。
・鄭夢周が日本との交流について、「交隣」概念を使ったこと、そして、彼の対日外交が交隣として朝鮮王朝において顕彰されたことからわかるように、高麗後期に登場した交隣概念は、新進士大夫に継承され、また、彼らが主役になって開創した朝鮮王朝にも継承された。
・朝鮮王朝初期から、交隣は事大とともに国王が行う重要な業務として位置づけられたことで、その概念としての重要性が高まった。
・朝鮮王朝前期において、交隣概念は、まず、儒教という思想の変数によって展開された。
・日本との関係で交隣の内容――仏典の提供など――として含まれていた仏教の要素を徐々に排除することで交隣を儒学的な概念として純化する動きと、中国との関係である事大と交隣を分離することから朝鮮が主導して理念の意義を維持する動きが現れた。

・前項のような思想的特徴を維持しながら、朝鮮王朝前期の交隣概念は、一方で交隣の相手との関係という現実の変数によって具体的に展開された。日本列島、そして中国の東北地域に存在した多様な勢力が朝鮮王朝と独自の関係を結んだ結果、交隣概念は、多様な関係性を包括する現実を反映する必要性に迫られた。その結果、交隣は朝鮮が優位に立つ関係と両勢力が対等な関係という二種類の関係を包括する意味へ具体化された。

・「日朝修好条規」（1876）の締結について、朝鮮王朝の朝廷の議論では、交隣の原理の部分を維持しながら、その具体的な礼だけを変えるものと理解する傾向があった。

・1880 年代以降には、交隣概念をもって西洋近代国際関係を理解する作業などによって、概念が文明を超えて拡張する傾向も登場したが、西洋の翻訳語である外交が浮上することによって、事大以外の国際関係を表す概念をめぐる交隣と外交の競争が展開された。

・大韓帝国をめぐる帝国主義の侵略が明確になるにつれ、交隣概念は、国家間の関係がもつべき道徳的な性格を強調することで、批判の役割を担ったが、日韓併合の後は、急速に死語になっていった。

また、韓国における国際政治学の起源についても研究した。李用熙が、朝鮮半島の儒学を近代的に再解釈した「国学」の影響のもと、満州国での現実的、また精神的な経験を生かして、現代韓国の国際政治学の基礎を作ったことを明らかにする研究を行って、2017 年 11 月にソウル大学で開かれたシンポジウム「韓国国際政治学：将来百年の設計」で「国際政治学者としての李用熙の誕生（韓国語）
」を発表し、翌年にはシンポジウムの原稿をもとにした共著の論文集を出版した。

２）共同研究課題の共有された方法論に適した思想史への新しいアプローチを探求した。共同研究の方法論に関しは、ハ教授と比較歴史研究（comparative historical research）という研究方法を共有したが、この方法論が必要とする内容のアイデア部分へのアプローチの方法論は欠如していた。とりわけ、制度との接合を考慮する際に、思想の高度性を基準にする政治哲学ではなく、思想の影響力を基準にする政治認識へのアプローチの方法論が必要であった。そこで、「思想の内容だけではなく、思想の構造にも注目することで、支配的な思想の構造的な特徴を捉えることで、東アジア政治思想における伝統と近代の複雑な関係性を総合的に把握する道を探る」という方向性のもと、朱子学の構造的な特徴を明確にし、この思想構造の相違から、東アジア各国の政治思想の近代的な転換における相違を究明するという研究を行った。その成果の大筋は以下の通りである。

朱子学に内面、日常、超越という三つの領域が存在し、これらの領域は理という共通の原理によって綱買っていた。朱子学の受入とは、仁義礼智のような内容だけでなく、このような思想の構造の受容とも意味した。近世の日中韓で、この構造を受け入れ方は、それぞれ異なっていた。中国では一部分の異なる領域を注目する動き―陽明学は内面、考証学は日常―が現れた。一方、日本では朱子学の体系を崩壊させて日常のみが重視される傾向が、朝鮮では、朱子学の三つの領域全体を重視する傾向が続いた。このような思想の領域の特徴は、思想の内容が否定されても、生き延びる傾向があって、日中韓の伝統と近代の関係設定にも影響した。

そして、2018 年 3 月 7 日にワシントン大学にてコロキウムを開催し「Rethinking Tradition and Modernity in East Asian Political Thought: The Functions of Spheres of Thought in Modern Korea」というタイトルの報告を行って、ワシントン大学の東アジア関連研究者や訪問学者などの聴衆に研究成果を発信した。

３）共同研究の実証研究部分では、明治時代の日本と 1960－70 年代の韓国における伝統と近代の問題をテーマにした比較歴史研究を行った。その際に、両国の近代への変容において、最も影響力のあった朱子学が如何なる形で存在し、また如何なる役割を行ったかを明らかにした。そこで、近年の研究によって、明治維新と儒学との整合的関係が明らかなったことを受けて、日本からの影響をも注目しがら、朝鮮における伝統と近代の整合性の存在を明らかにしたうえ、日本との比較を行う研究をまとめた。そして、2019 年 3 月 8 日にワシントン大学でコロキウムを開催し、「Japanese Factors in Building Understanding on Confucian Tradition in Modern Korea」というタイトルの講演を行うことで、この研究成果の一部を国際的に発信した。

４）アメリカから帰国してからは、本共同研究で獲得した知見、とりわけ、方法論を他の研究テーマにも応用することによって、関連研究をさらに発展させる可能性を探った。例えば、これまで行ってきた「交隣」に対する概念史研究の成果に基づきながらも、制度をも含めた総合的な理解の可能性を切り開くために、「交隣の思想空間」の歴史的な分析という研究課題を設定した。そして、2018 年 11 月に島根県立大学で開かれた研究会の場でこのアイデアに基づいた試論について報告を行った。この報告は、研究の応用の可能性について確認するとともに、日本の研究者と共同研究の成果を共有するという意味をも持っていた。

５．主な発表論文等
（研究代表者は下線）

〔雑誌論文〕（計　4　件）

姜東局「朝鮮前期の交隣概念」（韓国語）『概念と疎通』、査読有、第 21 号、2018 年 6 月、129－167 頁。

姜東局「朝鮮半島における交隣概念の起源 ： 高麗王朝期における原型の形成」『名古屋大学法政論集』、査読無、第 272 号、2017 年 3 月、101－120 頁。

姜東局「近代朝鮮半島における政治空間に対する認識の変容 ： 家・郷・国・天下から国内・国際へ」『名古屋大学法政論集』、査読無、第 269 号、2017 年 1 月、179－200 頁。

姜東局「近代朝鮮における交隣概念」『朝鮮史研究会論文集』、査読有、第 54 集、2016 年 10 月、33－59 頁。

〔学会発表〕（計　3　件）

KANG Dongkook, “Japanese Factors in Building Understanding on Confucian Tradition in Modern Korea”, UW Korea Studies Colloquium, 2019.

姜東局、「交隣の言説空間試論」、シンポジウム「16－19 世紀東アジア国際秩序の成立と変容の研究」、2018 年。

KANG Dongkook, “Rethinking Tradition and Modernity in East Asian Political Thought: The Functions of Spheres of Thought in Modern Korea”, UW Korea Studies Colloquium, 2018.

〔図書〕（計　1　件）

姜東局,他、『韓国国際政治学：将来百年の設計（ソウル大学国際問題研究所叢書 16）』（韓国語）、社会評論社、2018 年、510 頁。

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織

研究協力者

〔主たる渡航先の主たる海外共同研究者〕
研究協力者氏名：ハ・ヨンチュル
ローマ字氏名：HA Yong-Chool
所属研究機関名：ワシントン大学
部局名：ジャクソン国際関係学大学院
職名：教授

〔その他の研究協力者〕
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。